



5月7日から学校再開の予定でしたが、ご承知の通り新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況から、益城町の小・中学校でも5月31日までやむを得ず休校措置をとることになりました。前代未聞の厳しい状況ですが、どうか一日も早く好転することを強く願うところです。子供たちはもちろん、ご家庭の皆様方には引き続き、ご心配やご苦労をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、本日、子供たちは、学習課題や学習計画表、また県教委から出されています各種メディア等での学習支援番組についての紹介チラシも持ち帰っています。休校期間の家庭学習についてもご支援よろしく願いいたします。休校期間の子供さんの健康面等も含め、気になられることがありましたら学校にご相談ください。

## 新型コロナウイルスの3つの「顔」

4月14日は、熊本地震に関連して、本校でも「命と防災の日」の取組として校長講話を行う予定でしたが、急な休校のために中止したところでした。

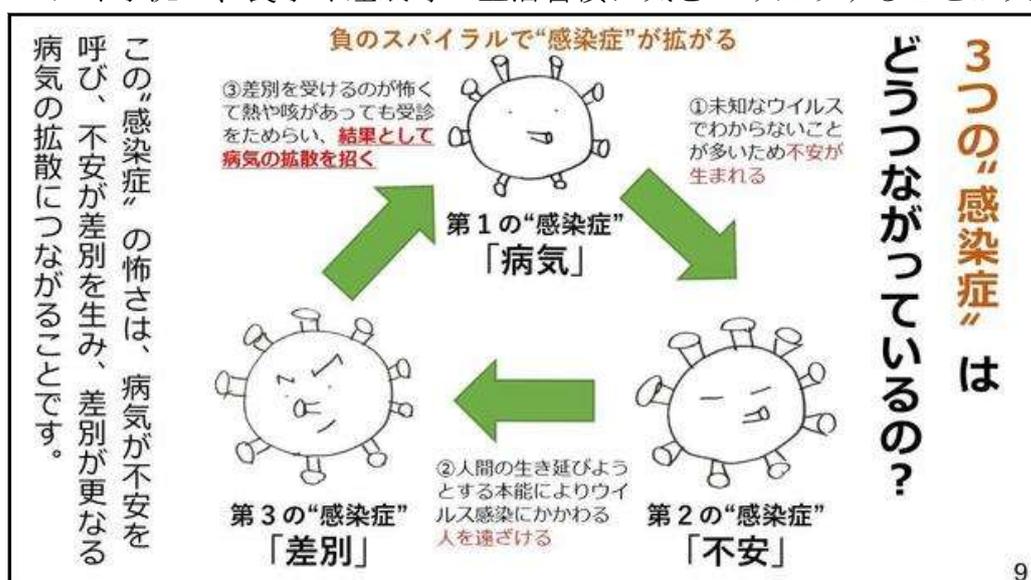
予定していましたが講話の内容は、災害時に私たちが気をつけたい、間違った情報や不安からくる思い込み、或いは、他者への偏見などについて考えようというものでした。

東日本大震災の時にも、原発事故のために転校した児童生徒への心ない言動から「いじめ」の事案が発生することがありました。また、熊本地震時においても、例えば「動物園からライオンが逃げた」等の間違った情報が流されて、動揺が生じたこともありました。

今回の新型コロナウイルス感染症の拡大という災害においても、感染者やその家族、或いは、同じ職場の方々への心ない発言等が発生しているというニュースも耳にするところです。

日本赤十字社の資料（右下）によれば、新型コロナウイルスには3つの顔、考慮すべき3つの側面があると指摘されています。その1つ目は「病気」という顔、2つ目は「不安」という顔、そして3つ目が「差別」という顔です。1つ目の「病気」については、求められている通り、「3密」を避けたり、マスクや手洗い、食事や睡眠等の生活習慣に気をつけたりすることが大切

です。2つ目の「不安」については、今回の事態から、誰もが強く感じているものですが、できるだけ正しい情報を知り、対応していくしかないのが実情だと思います。ただ、この「不安」があまりに増大しすぎると、中には、3つ目の「差別」の顔の拡大につながってしまうことも危惧される



自身も含め、改めて大事にしていかなければと感じています。

今、医療に関わって仕事をされている方々、本当に厳しい状況だと思います。また、この感染症に起因して通常の業務ができずに苦慮されているお家の方々も沢山おられることと思います。外出ができず、ご家庭で子供たちと過ごす時間が取りやすいこの時期、コロナと戦っておられる方々への感謝や、親御さんのお仕事への思いなどについて、子供たちの発達段階に応じて、是非、話題にいただければありがたいです。それこそが生きた「キャリア教育」につながるものと考えます。